

ミューアの夢の追求

— シエラ南部の国立公園拡大運動、一九一五年—一九四〇年

加藤 鉄三

キーワード

シエラ・クラブ セコイア 南部三タウンシップ キングズキャニオン ウィラード・ヴァン・ネイム

はじめに

本稿の主目的は、カリフォルニア州シエラ・ネヴァダ山脈南部の国立公園拡大運動における自然保護運動を通して、第二次世界大戦前の自然保護運動の認識と活動姿勢を再考することにある。

この運動の興味深い点は、保存／保全対立や地元開発利害との調整が難航したこと以上に、国立公園派内部での見解の相違が表面化したことにある。これは先行諸研究において指摘されてきたことであるが、言説と認識の相違が十分に検討されているわけではない。それ故、本稿では当事

者たちの認識と言説を重視する。

本稿は以下の構成をとる。第一章で、一八九一年から一九一〇年代前半におけるセコイア国立公園拡大論を概観する。第二章で、一九一〇年代後半から一九二〇年代前半におけるセコイア公園拡大運動において顕在化した国立公園派内の分裂を検討する。第三章で、それが最も顕在化した一九二四年の公聴会を取り上げる。第四章で、キングズキャニオン国立公園運動における国立公園派内の対立を検討する。この作業を通して、保存派や国立公園派と一括されがちな人々の間の戦略的・戦術的差異が明らかになるであろう。

一、セコイア国立公園拡大運動、

一八九一年～一九一四年

シエラ中央部に位置するヨセミテ国立公園の初期の歴史が蚕食に対する反対運動として展開されたのに対して、セコイア国立公園の場合、一八九〇年秋の設立・拡大直後から、当事者たちは境界線の不十分さを認識し拡大の必要性を論じていた。その担い手は次の三つに分かれる。

一番目は、セコイア国立公園設立運動の立役者、ジョージ・スチュワートらである。彼は早くも一八九一年四月にセコイア公園拡張を求めている²。第二番目は、一九二六年と四〇年の立法に直接的に繋がるミューアとシエラ・クラブである。三番目は、一九一四年春まで現地の監視を担った騎兵隊士官である。本節では、後の運動との関連を重視し、第二の動向を論ずる

その最初期の事例として有名なのが、『センチュリー』誌の一八九一年一月号に掲載された、ジョン・ミューアの「ヨセミテのライヴァル」である。一九三〇年代にも繰り返し言及されたことから、その構成と特徴を若干詳しく紹介する。ミューアの執筆目的は一八七〇年代の知見と、画家チャールズ・ロビンソンを伴った一八九一年五月のキングズ川流域訪問時に得た状況認識に基づき、セコイア国立公

園の拡大を求めることにあった³。

この論考は「広大なシエラのウイルダネスの中に有名なヨセミテ溪谷のはるか南に同種のさらに雄大な溪谷がある」という一文で始まる。そして、全二一頁中の七頁がキングズキャニオンⅡキングズ川サウスフォークの峡谷（周辺）のイラストによつて、二頁がデヒピテ溪谷のイラストによつて占められており、読者の視覚（的想像力）に訴える側面が極めて強い。ミューアは、彼がヨセミテ溪谷に匹敵すると感じていたキングズキャニオンを中心にホイットニー山などの地質学的景観の魅力を、ヨセミテとの類比を多用し強調した⁴。

森林伐採への言及は「キングズ川」溪谷への旅」と題された節中の十行及びに、「破壊的傾向」と題された一頁強からなる節の一部のみであるが、セコイア *Sequoiadendron giganteum* 保護もまたミューアにとつて重要課題であった。それは彼が「この素晴らしいキングズ川地域の全ては、カウイアとチュウレのセコイア『の森』と共に、一つの大きな国立公園内に包摂されるべきである」と論じ、拡大地域を図示した地図中に、セコイアの森の所有状況を示し、チュレア郡とカーン郡の郡境に近いマンモスの森に至る、大幅な南方への拡大を示していたことから伺える⁵。

ウイルダネスという語彙を使用していたとは言え、ミュー

アが言説の中で強調していたのは、崇高やピクチャレスクといった美的概念の範疇に入る景観であった。

一八九二年の結成以降、シエラ・クラブの初期の表立った活動はヨセミテ国立公園地域に集中していたが、シエラ南部の状況にも関心を寄せていた。それは同年一二月、同クラブのウォーレン・オルニーが、同地域を森林保留地設立の事前調査のために訪れていた、連邦政府のアレン調査官をサン・フランシスコの事務所に招いて会合を持ったことから明らかである。一八九三年三月にハリソン大統領の布告によってシエラ南部にシエラ森林保留地が設立されると、彼らの関心はその保護・管理に向かった。

シエラ保留地は設立当初、紙上の存在同然であり、一八九〇年代後半には森林保留地制度自体のあり方も問われた。森林保留地の農務省移管後、シエラ・クラブは一九〇六年にキングズ川流域へのアウティングを実施して、同地域の魅力を再認識した。クラブのアウティング委員会は同年末に「キングズ川峡谷と周辺に関する報告書」を合衆国大統領・農務長官・森林局林務官に宛てて作成した。彼らがその中で求めたのは、即時の国立公園化要請ではなく、森林局による国立公園的管理であった。彼らはその魅力としてヨセミテ的な溪谷美や山岳景観など地質学的側面を重視し、対象地域内からの放牧排除を求め、次のように論じた。「野

生動物は国立公園内と同様に保存されるべきである」。

彼らが公園拡大に向けて最初に動いたのは一九一一年である。この年、クラブの理事、ウィリアム・コルビーが合衆国地質調査のロバート・マーシャルの協力を得て、セコイア国立公園拡大法案提出に漕ぎ着けたが、森林局長官ヘンリー・グレイヴズの反対によって、この法案は不成立に終わった。グレイヴズの反対理由は概略次のようなものであった。畜産業界を中心に山麓社会からの激しい反対が見込まれること、そして新境界線確定は国立公園局が設立されて明確な政策が策定されるまで中断されるべきことである。

何れにせよ、一九一〇年代初頭のシエラ・クラブにはセコイア公園拡大運動を本格的に展開する余力はなかった筈である。何故ならば、まさにこの時期、ヘッチヘッチー論争は佳境を迎えつつあり、その対応をめぐって同クラブは分裂していたからである。

ミューアは一九一四年末に死去し、シエラ南部の国立公園拡大は彼の死後、半世紀以上にわたる課題として残ることになる。

二、セコイア国立公園拡大運動の再開と分裂、

一九一五年～一九二四年

セコイア国立公園拡大運動が再活発化し始めたのは一九一五年である。この年の七月、後に国立公園局初代長官に就任するステイヴン・マザーは連邦議員やナショナル・ジオグラフィック協会のギルバート・グロスバナーらを連れて、セコイア国立公園と拡大対象地域を訪れた。この直接的な成果として、同公園の中心部に位置するジャイアント・フォレスト内の私有地の一区画が、一九一六年に連邦政府の支出にナショナル・ジオグラフィック協会の寄付を加えて購入された¹¹⁾。

また、同年にシエラ・クラブのW・コルビーはレイン内務長官にセコイア公園拡大活動の再開を要請しており、地元チュリリア郡の商工会議所も賛成を表明した。そして一九一六年三月、ウィリアム・ケント下院議員がセコイア国立公園拡大法案を提出し、運動が再開された。同議員は同年初頭以降、国立公園局設立法案提出に向けて活発に活動しており、この段階で法案成立の感触を得ていたと思われる。公園局法案は一九一六年九月に成立し、内務省の国立公園担当補佐であったS・マザーを局長として国立公園局が発足した¹²⁾。

同局は国立公園派市民団体の求めていたものであったが、設立法の規定は「原生(的)自然(wilderness)」の保存というよりはむしろ、観光資源の保全であり、イエローストーン国立公園以外の国立公園・国立記念物内での放牧を認めた¹³⁾。これは旅行者の存在を判断基準に、旅行者集中地区では当局側と旅行者に共有されている魅力に重点を置くことを意味していた。

しかも予算が承認され、公園局が正式に発足した一九一七年はアメリカが第一次世界大戦に参戦した年であった。同年、銃後支援の名目で畜産業界からの圧力が高まり、シエラ・ネヴァダの国立公園内でのヒツジの放牧再開を求める声が高まった。公園局副長官オルブライトらの努力の結果、牧羊は阻止されたものの、同年に旅行者の少ない地区でのウシの放牧が認められた¹⁴⁾。

さて、国立公園局は当初からセコイア公園拡大を重要課題としていた。そのことは、同局が『国立公園ポートフォリオ』写真を通して視覚的に諸国立公園の魅力を訴えた宣伝書籍——中でセコイア公園拡大予定地域を八頁にわたって紹介しており、一九一七年の年次報告書にも「大セコイア(The Greater Sequoia)」として地図を付して記述されていることから明らかである¹⁵⁾。

一九一九年一月のセオドア・ローズヴェルト元大統領の

死後、彼が共同設立者であった野生動物・自然保護団体ブリン・アンド・クロケット・クラブの主導で、拡大される同公園の名称をローズヴェルト国立公園と変更することが提案され、この後ローズヴェルト国立公園ないしはローズヴェルトセコイア国立公園法案として提出されることになった。⁽¹⁸⁾

他方、内務省内でマザーの補佐をしていたロバート・スタリリング・ヤードは、同年に国立公園協会を設立し国立公園システムの確立を目指して活動を開始した。同協会にとつての国立公園とは「並外れて重要な地域に限定されるべき」ものであり、設立目的の一つに「国立公園の風景及びに動植物の展示を利用することで自然科学を解釈し普及させること」を掲げた。⁽¹⁹⁾

一九二〇年に連邦電力法が成立したことで、事態はなかなか切迫した。同法が国有林と国立公園を共に電力発電用ダム建設に開放することを規定したからである。翌年の修正で既存の国立公園は対象から除外されたものの、審議中の拡大予定地は除外されなかった。そしてロスアンゼルスがキングズ川流域内五カ所に、サン・ホアキン平野の灌漑農業者らが同流域の三カ所に各々申請した。⁽²⁰⁾

一九二一年に提出されたローズヴェルト公園法案には電力法の適用を除外する条項が含まれていなかったことから、国立公園協会はその純粹主義的立場から反対にまわり、シ

エラ・クラブのW・バデもまたフランシス・ファーカーにクラブの方針として「水力発電計画や他の形態の商業的侵入」を認めない立場を取るように伝えた。⁽²¹⁾

しかも火種はこれに留まらなかった。一九二一年六月、カリフォルニア州選出のヘンリー・パーバー下院議員が、公園の北部拡大と引き換えに南部三タウンシップ、即ち、最初のセコイア国立公園を森林局に移管する妥協案を提示し、一九二二年一月二〇日に合意されると、ウィラード・ヴァン・ネイムによる批判が現れたからである。⁽²²⁾

シエラ・クラブのF・ファーカーは、一九二一年修正案に対して、地域の特徴や運動の歴史的背景などを論じる論稿を準備していた。これは未完成に終わり、キングズ川流域の記述は欠如しているのだが、彼は南部三タウンシップについて次のように論じている。「ホッケット草原地域として知られている場所を除いて、これら南部三タウンシップは国有林地によりふさわしくホッケット草原地域は公園のそれ以外の地区から極めて孤立しているので森林局によって管理された方がより良いように見える」。彼らは自発的に妥協案に賛成したのではなかったと指摘されているが、ファーカーはその移管を正当化する論拠を見出していた。⁽²³⁾

他方、ヴァン・ネイムは一九二二年一月以降、グロスバーナーに手紙を出して問題を訴え、『サイエンス』や『生態

学』などの専門誌上で議論を展開した。彼はアメリカ自然史博物館の無脊椎動物課副主任であつて、その活動は自然科学界における彼の位置に負っていることが大きかつた。

一九二二年四月までに、カリフォルニア大学の生物学者サムナーを通して、彼の手紙はシエラ・クラブ側にも知られていた。そして、公園局のマザー長官はアメリカ自然史博物館のフェアフィールド・オズボーンに、ヴァン・ネイムが博物館の便箋を用いて発言するのを止めさせるよう依頼した。以下、サムナー宛て書簡、一九二三年二月の『国立公園半分の略奪』、『生態学』誌上での討論、一九二四年一月の自費出版のパンフレット「セコイア国立公園―修正されるか否決されるべき法案」を検討する。

サムナー宛ての私書中で、彼は森林局への不信任感を述べ、セコイアの成熟木を切らせないという約束に関して次のように記した。「疑いなく現執行部はその約束を守るであろうが、将来の執行部については言えない。何故ならば法律ではセコイアは目下木材とパルプ用に売却されつつある他の木々と同じ地位しか有していないからだ。そしてバーバー法案の「最悪の特徴の一つ」として、買い戻されたアトウェルの森が除外されることを挙げて、公園局の姿勢も批判した。この時点で緊急の課題と彼が感じていたのは「公共と子孫のために西部の壮大なサトウマツ、ボンデローザマツ、

モミとオニヒバからなる数少ない最後の残りを保存する問題」であつた。そして彼は次のように述べて、その言葉に則つて行動をした。「公園を守る方法はそれらに対するあらゆる攻撃に関する宣伝を促し申し分ないものにするのである」。

「国立公園半分の略奪」中で、ヴァン・ネイムは指摘する。「セコイア公園が保護するために設立されたのは山岳風景ではなくその壮大な森林である」。そして、バーバー法案の東部・北部拡大地域を「不毛で、到達不能な山地」と地図中に表象し、次のように論じた。「それは決して富裕者の公園以外のなものになり得ない」。彼は、公園地域の価値の中心は巨木の森にあり、移管対象地域は既存の公園の半分未満だが、市場価値の最も高いサトウマツの森林があることを指摘した。

『生態学』誌一九二三年四月号の紙上討論に話を移そう。彼は前稿と同様の議論を繰り返し、「その『南部三タウンシップの森林』保存は美的観点同様に生態学的観点からも重要である」と論じた。

これに対して、シエラ・クラブの中心人物の一人、ウィリアム・パデは次のように応じた。南部三タウンシップにあるのと同等のサトウマツとボンデローザマツとシロモミからなる森林がヨセミテ国立公園内にもあること。セコイ

ア公園内のその地域の森林は、中心地から離れているために十分な保護が行われていず、放牧に開放されていることから、既にひどく傷ついていること。ヴァン・ネイムが「不毛で、利用不可能な山地」と表象した地域内には、セコイア公園にもヨセミテ公園にも含まれていないキツネオマツの森林が存在しており、生態学的観点からも重要であること。また、テヒピテ・ドームのようなヨセミテに匹敵する景勝地が存在すること。そして森林局への移管は商業的開発のためではなく、隣接地域と一括した「実際的な管理」のためであり、森林局はセコイアを伐採しないと約束している、ということである。³⁰⁾

「セコイア国立公園」は表裏二頁のパンフレットであり、ヴァン・ネイムは森林局の国立公園面積削減の企図と二つの湾入部の存在に議論を集中させた。彼は特にキングズ峽谷地域の湾入に関して森林伐採の危機を指摘し、森林局の地区林務官ポール・レディントンの手紙から現存木材量を引用し、次のように強調した。「この量の立木はこの国の八日間の消費よりほとんど多くない。その木材への転換はそれ故に国民経済の必要性ではあり得ない³¹⁾」。彼もまた「経済的無用地仮説」に通じる議論を行っていた。

国立公園支持派内の見解の対立が表面化する一方で、一九二三年十月に森林局は南部三タウンシップの実地調査を

行い、それらを国立公園内にほぼ維持する方向に転換した。これはマザーにも伝えられ、マザーを通してコルビーも知るところであった。³²⁾ 他方、灌漑事業者たちは一九二四年初頭においても利害対立を感じていた。³³⁾ この関連で、国立公園協会のヤードは同年一月末にコルビーに手紙を送っている。彼はコルビーが灌漑農業者との妥協に動いたのに対して次のように記した。

「そのような失敗は極度に破壊的でしょう。運動全体が党派に分裂して、その一部は、我々はその熱情を辛うじて抑えられるのですが、我々全体の被害に対して達成できない目的を求めて運動するでしょう³⁴⁾」。

しかし我々の残りの者たちは、どの道、おそらく多年にわたって、回復不能な被害を被るでしょう³⁵⁾」。

国立公園協会の姿勢を明確に表していると共に、十五年後を予兆するものであった。

三、一九二四年二月公聴会

セコイア国立公園拡大法が成立した一九二六年ではなく、一九二四年の公聴会を論じる理由は以下の通りである。第一に、関係者が揃ったのはこのときだけであること。議論が噛み合っていない部分が多く、反復も多いのだが、各論

ミューアの夢の追求（加藤）

者が何を動機とし、何を問題であると論じていたか垣間見えることである。第二に、一九二六年四月の下院公聴会では事実確認がなされただけであり、六月の上院公聴会では公園名が問題にされた以外、本格的な議論がないことである。³⁶

一九二四年二月二十七日と二十八日、第六八議会第一会期に提出された、ローズヴェルトセコイア国立公園法案に関する、連邦下院公有地委員会公聴会が開かれた。ここでは要約的に議論を進める。

初日の二月二十七日、公聴会は法案提出者バーバー議員の発言から始まる。一九二四年法案の大幅な妥協点、キングズ川流域の削除について、彼は灌漑農業者の潜在的な利害関係に鑑みて同流域を除外したと論じた。³⁷

公式発言における風景価値という点では、国立公園局と森林局の両長官は一致していた。公園局長官マザーは次のように述べている。「大キングズ川流域とカーン川を包括し、高さに関する限り、ホイットニー山とシエラ・ネヴァダ山脈の脊梁にて最高点に達する、公園が設立されると我々は信じています。この地域内にはおそらく合衆国内のどこよりも壮大な風景が存在しています」。そのうえで彼はキングズ川流域が公園に含まれるべきだと論じた。³⁸

森林局長官ウィリアム・グリーンリーもまた国立公園化に

同意した。「西部にさらなる国立公園を正当化する、際立った国民的な重要性和並外れた美しさを有する何らかの地域があるとすれば、それはこの地域であって、地域全体であります」。またキングズ川流域について、将来的な開発可能性を認めつつ、次のように述べた。「私たちがその地に国立公園の地位を与えることを正当化されると私は感じております」。³⁹

次に国立公園公園派市民（団体）の議論を検討する。先ず、彼ら全員が共通して述べたことは、キングズ川流域の拡大対象地域からの除外に対する戸惑いであった。これは、本公聴会の直前に行われた修「正」であり、市民側は誰も知らされていなかった。それ故、団体の代表として参加した人物の場合、その総意としてこの点への意見を述べることはできなかった。⁴⁰

シエラ・クラブ会長、W・コルビーはグリーンリーに同意を示し、ミューアと一九〇六年報告書に言及した後で、次のように論じた。「仮にこれら二地域だけが考慮されるべきであつて私たちがどちらか一方に関する選択肢を持つているのであれば、私はむしろ大いに北部を選んでいたでしょう。何故ならばそれはテヒピテ溪谷を含んでいるからで、それはテヒピテ・ドームと崇高な滝とその溪谷を、かなり小さいだけで、ヨセミテとその面では同じくらい際立ったもの

にしている他の類似した岩石構造を有しているからです。岩石は、しかしながら、同じくらいの高さがあります」。

彼はその地域の魅力として、数多くの湖と「キツネオマツの大森林」が存在していることを挙げ、除外されるセコイアは「取るに足らない数」であつて、また伐採されることはないであろうと述べた。

二日目、東部の一九の自然保護関連団体を代表した、フィリップ・エアーズは北部の除外に反対を表明したうえで、公園南部のセコイアの森について、現地に派遣した会員からの報告に基づき賛意を示した。

コルビーは二日目にも次のように述べて、持論を強調した。「その法案を通過させるのが必要であつたならば我々はこの広大な地域と引き換えにそれら三タウンシップを犠牲にするのを厭わなかつたでしょう。それらのものを数学的に比較できるのであれば、それ「キングズ川流域」は容易に百倍の価値があります」。

ヴァン・ネイムも同日に意見を陳述している。彼の見解を端的に示しているのは次の発言である。「国立公園の中で守るのが最も困難なものは、その商業的価値ゆえに、森林です」。彼は反対理由として次の三点を挙げている。一点目は現在の公園から一部を除外すること、二点目は形状、即ち、前述した湾入である。そして三点目は「何の理由も示

さずにここで一地域を除外することで国立公園の保証を崩させるということ」である。

南部三タウンシップに関しては、ほぼ公園内に維持されるよう修正されたとは言え、当該地域に生育するセコイアの生育数が問題になった。以下、彼の発言と彼への質問を引用する。

「反対理由はここを走る尾根のすぐ南に並外れてすばらしいジャイアントセコイアの森があるということです。さて、それらセコイアの森に関する情報を得るのはとても難しかったです。数多くの人々が、連邦政府官庁職員も含めてですが、昨夏にその地域を訪れて探索しました。しかしそれらの報告書は彼らが見たものについて公開されてきませんでした。しかし信頼できるものが漏洩して、私はひとつの報告書、もしくはひとつの写しを見ました。その中にはこの分水嶺の北のこの地域内に一六〇〇本から一七〇〇本のセコイアの大木が生育していると報告されていた、と私は思います」。

彼はさらに次のように証言している。

「ヴァン・ネイム氏。私はこれを質問の形にしようと思えばできます、それに森林局が、そこには、一平方マイルの地域を覆い、直径一〇フィートの巨木がおそらく五〇〇本ある、非常に大きくて素晴らしいセコイアの森がないのか

ミューアの夢の追求（加藤）

どうか、後で答えることができます。

コルトン氏。それは既に明らかです。即ち、そこにはおそらく二〇〇本の樹があると見積もられてきました、そしてそれはここにあるこの記録の中に書かれています。

ヴァン・ネイム氏。これに従った推定数は実際のわずかに半分ではないでしょう。

分水嶺の南はデIRONウッドの森（地区）であり、北はガーフィールドの森（地区）である。

彼も森林局公認の伐採がセコイア周辺まで及んでいないことを認めたらうで、悲観的観測を述べた。「森林局の土地では需要が生じるときにはいつでもそれらは売却されます」⁴⁵。

但し、彼の見解は自身の見聞に基づくものではなく、一部の情報源を秘匿したことから、信頼を失った。情報源の秘匿にはやむを得ない側面があったであろう。しかし彼の自然科学者としての立場が活動を展開するうえで有意味であったことと、自然科学研究においては確かな情報に基づき細部の精確さを期して論じることが常としていた筈であることを考慮に入れるならば、この運動における彼の戦術に杜撰さがあったことを否めない。

北アメリカ連合登山クラブ事務局のル・ロイ・ジェファーズは加えて、もう一点重要な点を述べている。「ヨセミテ渓谷は既に夏には一度に一万人の人々で埋められていますの

で、アメリカ中から来訪する数千人もの人々の便宜を図るために無比の壮麗な他地域が必要とされているのです」⁴⁷。

ヨセミテ国立公園では二〇世紀初頭に旅行者増による公衆衛生が問題と化しており、自動車の普及によって混雑に拍車がかかっていた。実際、一九二二会計年度年次報告書によれば、同国立公園全体で、七月三日に一一九六二人を記録しており、同日、ヨセミテ渓谷内の公共無料キャンプ場を七一五二人が利用していた。それ故、匹敵する景観を有する代替地の必要性は高まっていた。

女性クラブ総連合のジョン・シャーマン夫人は、「二八〇万人の女性」の代表として発言をした。彼女は森林の現況認識について両当局に準じるとしながらも、公園管理に困難を来たすとしても「いかなる湾入もなく、真直ぐに横断する」境界線を引くべきであるという、ヴァン・ネイムに順ずる意見を述べた。⁴⁸

即ち、対象地を管轄する連邦政府機関の間で合意が成立していた一方で、連邦議員との間に見解の相違が生じていた。国立公園派市民（団体）の間では、南部三タウンシップの維持が評価された一方で、唐突な予定境界線変更に対する戸惑いがあった。そしてサン・ホアキン平野の灌漑事業者たちが参加していなかったこともあり、この年の公園拡大は失敗に終わった。

ここで、国立公園派内の議論の成否を検討する。ヴァン・ネイムの批判に対して、シエラ・クラブ側はキングズ川流域の状況とシエラ中・南部の植生の両面において、相手の土俵上で有効な反批判を展開できていたように見える。しかし、ヨセミテ地域のサトウマツの状況は決して安泰ではなく、ヴァン・ネイムもまたそのことを知っていた^④。さらにそれ以上に疑問の余地のある発言もあった。それは、南部三タウンシップの状況は既に悪化しており、森林局への移管が適切であるという論拠である。管理体制の不備を語りながら、それ以上の領域の拡大を語るといふ議論が、説得に有効であったとは考えられないからだ。

次は湾入と伐採鉄道の問題である。ヒューム地域に製材所と伐採鉄道が建設されて活動していたのは事実であるが、これは一九二三年シーズン末に操業を停止していた。それ故、この点に関してはヴァン・ネイムの誤解であった可能性が高い^⑤。

但し、ガーフィールドの森認識はヴァン・ネイムが正しかった。批判者側が用いた数字は、一八九〇年に提出された内務省中央土地管轄局の特別調査官コールドウエルの報告書と一致している。彼はこの地区に関して次のように記している。「このタウンシップ内にあらゆる大きさのレッドウッドがおよそ二〇〇本見出される」^⑥。

森林局の一九二三年一〇月の調査は、DBH（胸高直径）一〇フィート以上の個体が四三七本、同四から一〇フィートの個体が五四六本と報告していた。これはヴァン・ネイムの数字とは開きがあるものの、前述の通り、マザーとコルビーも知っていた^⑦。

筆者自身、現時点においてヴァン・ネイムの情報源を確認できていないのだが、次の二点から彼の得ていた情報が極めて正確であったことが伺える。まず、ジョン・R・ホワイトとウォルター・フライは、一九三〇年に出版された共著書『ビッグトウリー』において、ガーフィールドの森には地上六フィートで直径が一〇フィート以上あるセコイアが一六〇〇本生育していると記している。ホワイトはこの当時のセコイア国立公園監督官であり、フライもまたセコイア国立公園に長く関わってきた人物である。政府出版物ではないものの、公式に近い意味合いを有していたと見てよいであろう。そして一九七四年に行われた調査によると、ガーフィールドの森にはDBH二〇フィート超のセコイアが九本、DBH一五フィート以上のセコイアが二九〇本、DBH一〇フィート以上のセコイアが一三二四本となっている。セコイアの成長率からして、これら全てが一九二四年時点で成熟木であったことは間違いない。

再度の調整を経て、一九二六年二月に提出された法案は

キングズキングズ川流域を完全に除外していたために、灌漑農業者たちも賛意を表明した。そして六月の公聴会にて公園名称からローズヴェルトを外し、セコイア国立公園に戻したうえで、同法案は可決・成立した。その拡大対象地域はカーン川流域に限定され、南部三タウンシップは維持された。⁽⁵⁶⁾

四、キングズキャニオン国立公園運動、

一九三五年～一九四〇年

公園局は一九二六年以降もキングズ川流域への公園拡大に関心を持ち続けており、一九二八年と二九年に森林局と意見交換をしていた。⁽⁵⁷⁾しかし運動は小康状態に入っており、フーバー政権の公有地政策は国立公園拡大に有利ではなかった。⁽⁵⁸⁾

他方、一九二〇年代初頭以来、当時南西部にいた森林局のアルド・レオポルドはウイルダネス政策を提唱し、同局はウイルダネス保全政策に乗り出していた。局として同政策を採用した背後には、自然保護運動を取り込む意図があったのであろうが、森林局はさらに一九三〇年にリーニ・二〇諸規則という原始地域(Primitive Area)管理方針を打ち出し、その一層の推進姿勢を示していた。⁽⁵⁹⁾

と同時に、自然保護団体―特に国立公園協会が公園局の道路建設推進政策やクマの餌付けなどを承認する野生動物「政策」に対する批判から、公園局と距離を置き始めていた。⁽⁶⁰⁾

一九三三年、森林局がキングズ川上流域の原始地域に指定すると同時にキングズキャニオンへの道路建設に着手したことに對して、国立公園化運動が再び動き出した。⁽⁶¹⁾但し、これによってあらゆる自然保護団体が即座に国立公園化に向けて統一的に動いたわけではなかった。

何故ならば、この時期、シエラ・クラブと森林局の関係は良好であったからである。また、同年、森林局カリフォルニア州林務官S・B・ショーは同クラブにカリフォルニア州内のウイルダネス／プリミティブ地域を提示し、同局のウイルダネス保全政策への理解を求めている。⁽⁶²⁾

他方、同クラブと国立公園局のワシントン本部の関係は疎遠になっていた。それ故、その先導役はシエラ・クラブではなく、フランクリン・デラノ・ローズヴェルト政権の内務長官ハロルド・イツキズと一九三〇年にヴァン・ネイムらによってアメリカ東部で結成された緊急保全委員会であった。⁽⁶³⁾イツキズは就任当初より国立公園に関心を寄せており、ローズヴェルト大統領が一九三四年を「国立公園年」に設定すると、彼は同年夏にヨセミテを含む西部の国立公園を訪問してその必要性を再認識した。そして彼は同年の

国立公園監督官の会議でウィルダネス保存への期待を表明した。⁶⁴

イツキズは一九三五年にカリフォルニア州選出上院議員ハイラム・ジョンソンを説得して、三月一八日にジョン・ミューアー・キングズ峡谷国立公園設立法案の提出を取り付け、キングズ川流域の国立公園化運動を再浮上させることになった。⁶⁵同法案に関する一九三五年三月二五日の新聞発表には次のように記されている。

「その地域への現在進行している公道建設は、地域を新たなそして将に真の危険に開くであろう、そして新道路の開通に不可避免的に続くであろう開発は注意深く防がれることがきわめて重要であると、イツキズ長官は述べた……」。

問題の発端は明らかに道路の建設にあったのだが、新聞発表とは裏腹に、この法案にはウィルダネス保存条項⁶⁶道路非建設条項が含まれていなかった。それ故、国立公園協會は反対にまわった。⁶⁷他方、シエラ・クラブは検討段階で知らされていなかったのだが、理事会は送付された法案の写しを検討し、五月四日に同法案を支持する決議を採択した。⁶⁸

シエラ・クラブは同年夏のアウトディングをキングズ川流域で行い、現地で国立公園局の二人の生物学者ジョージ・ライトとローウェル・サムナーに出会い、彼らから国立公

園計画の説明を受けた。⁶⁹翌年、サムナーは同公園予定地域を含む野生動物報告書を提出し、次のように述べている。「風景価値を基準にしてヨセミテに匹敵することは望みえない。だからこそ、その魅力はカリフォルニアに残された最後の大きなウィルダネス地域であるという主張に依拠してきた」。⁷⁰それ故に、野性的な状況を維持すべきだとサムナーは強調した。即ち、彼のキングズキャニオンに関する価値認識には自然保護団体との間に相違があった。

一九三六年一月のアメリカ市民協会の会合に、写真家としても有名なアンセル・アダムズがシエラ・クラブを代表して出席した。彼は一九〇六年報告書に言及しつつ、この地域の国立公園としての適性を語り、国立公園化計画を強く支持した。⁷¹

シエラ・クラブは国立公園化を理想としていたものの、彼らにとってそれは選択肢の一つに過ぎなかった。その一因は、同法案が地元の製材業や畜産業などの反対が強かったこともあり、翌三六年にも審議されない状態が続いていたことにあった。一九三六年七月、セコイア国有林監督官エリオットからの招待を受けて、同クラブの代表は森林局職員と共にキングズ川流域の視察を行った。その際に彼らはキングズ川上流域の基本計画の写しを渡されており、クラブへの報告書中で同地域は国立公園化すべきであるとい

ミューアの夢の追求（加藤）

う姿勢を維持しつつ、基本計画への同意を表明していた。⁽⁷²⁾

そして翌三七年末には、同年に森林局に移籍していたロバート・マーシャルの要請に応えて、キングズ川流域を含むシエラ高地のレクリエーション価値の維持に関する報告書を提出した。⁽⁷³⁾ さらにフォックスによれば、シエラ・クラブ内には森林局カリフォルニア支部との協調を求める声が強かった。それ故、緊急保全委員会の中にはシエラ・クラブの協力が不可欠であると考える一方で、彼らに期待できないという見解を抱く者もいた。⁽⁷⁴⁾

この時期の国立公園局第四地区長官であったフランク・キットリッジの回顧によれば、イッキズはシエラ・クラブに好印象を抱いていなかった。他方、イッキズは森林局を内務省に移して資源保全省に改称することを構想しており、死後に公刊された彼の日記からは、農務省傘下の森林局を嫌悪していたことが伺える。⁽⁷⁵⁾ イッキズらはキングズキャニオン国立公園設立を推進する一方で、当初、国立公園派諸団体を糾合しきれなかった。

イッキズを含む東部の推進派にも問題があった。カリフォルニア州内にジョン・ミューア協会という現地に精通した支持団体があったものの、彼ら自身は実地を知悉してなかったことである。それ故、イッキズは保全委員会のアーヴィング・ブランドを派遣した。ブランドは一九三八年夏にキ

ングズ川流域の公園化提案地域を訪れると同時に、シエラ・クラブの理事らと話し合いの場を持った。続いて同年一〇月、イッキズが同クラブの理事らと話し合った結果、この段階で漸くシエラ・クラブは国立公園化に一本化することを決定した。⁽⁷⁶⁾

それでも尚、緊急保全委員会の側には不安があり、彼らはシエラ・クラブの支持を繋ぎとめる意味も含めて、一九三九年に国立公園にジョン・ミューアの名を冠するよう提案をした。国立公園運動はこれによって大きく前進したように見えたのだが、再び妥協を強いられた。一九三九年にギアハート議員によつて提出された法案にはウィルダネス保存条項が含まれた一方、サン・ホアキン平野の灌漑農場主らが反対したために貯水池候補地であったキングズキャニオンの一部とテヒピテ溪谷が除外されたのである。⁽⁷⁷⁾

これが国立公園派内の対応の相違を際立たせることになった。シエラ・クラブとアメリカ市民協会、緊急保全委員会は両峡谷のダム建設は切迫していないと判断し、且つ周囲を公園化しておいた方が両峡谷の保護を求める圧力をかけやすいと考え、同法案に賛成した。他方、国立公園協会とウィルダネス協会は二大峡谷除外を理由に不支持にまわった。⁽⁷⁸⁾

一九三九年三月中旬から四月初頭にかけて行われたギア

ハート法案の下院公聴会に、シエラ・クラブの代表は出席していないものの、一月一日の特別理事会において、森林局を賞賛しつつも、国立公園化による保護の永続化を求めた。^{②⑦}

三月一七日の公聴会で、森林局長官シルコックスは、以前の農務長官と森林局長官が同地域の公園化に賛成していたことを述べ、境界地域におけるウシの放牧以外は対立する利害もなく、当該地域の主な利用形態がレクリエイションであることから、賛意を示した。^{②⑧}

四月一日の公聴会で国立公園協会のジェイムズ・フットは、妥協は「チェーン全体を弱体化させる前例である」と批判し、次のように論じた。「ジョン・ミューアにとってキングズ川地域に国立公園を求める根本的な理由は、彼がヨセミテに匹敵すると見なした二つの大渓谷——キングズ川のミドルフォークにあるテヒピテとサウスフォークにあるキングズキャニオンを、自然の状態に、保存することであった」。

さらに、西部の水資源利用に理解を示しつつも、次のように続けた。「それは商業的利用と人為的特徴を免れるべきである。それがなされ得ないならば、もう一つの国立公園を持つためにジョン・ミューア・キングズキャニオン国立公園は設立されるべきではない」。^{②⑨}

「ヨセミテのライヴアル」及びに一九二四年公聴会のコルビーの発言を考慮すると、公園協会の反論は当然なものに見える。そして同協会の会長であったヤードはウィルダネス協会の編集者でもあり、ウィルダネス協会の共同設立者の一人R・マーシャルが一九三七年に森林局に移籍していたことから、両協会の一致は一見すると理解しやすい。但し、マーシャルは森林局のウィルダネス政策の有効性を信じていた一方、国立公園設立を支持していた。^{③①}

この反対には公式見解の背後に二つの理由があったことが指摘されている。一点目は、一九二〇年代後半以降、ヤードはその純粋主義的な視点から公園局の道路政策やクマの餌付けショーなどに幻滅を覚え、ウィルダネス保全政策を開始していた森林局と接近しつつあったこと。二点目は、緊急保全委員会のブランドラの指摘である。ブランドラによれば、大恐慌以降、同協会の財政的支柱であったマサチューセッツの富豪ウィリアム・ウォートンに、森林局の前職員オーヴィッド・バトラが助言を与えていたことである。

ウィルダネス協会は一九三九年三月二五日にシエラ・クラブからの電報を受けて方針を転換した一方、国立公園協会は同法案不支持の姿勢を崩さず、四月の理事会において既定方針の再確認をした。^{③②}

ブランドラによれば、公聴会終盤の三月末の時点において

ミューアの夢の追求（加藤）

ギアハート議員は同法案を諦めかけており、ブランド自身も見込みは薄いと感じていた。しかし公聴会が終了した四月六日までに状況が再転換し、公園設立支持派の宣伝活動は再活発化した⁽⁸⁵⁾。

連邦下院は一九三九年八月にジョン・ミューアの名を公園名から外した上で同法案を可決したものの、上院の本会議の審議は翌年に持ち越された。そして一九四〇年二月に連邦上位が可決し、同法案は同年三月四日にローズヴェルト大統領の署名を得て成立した。同公園には一九三九年に連邦政府によって購入されていたレッドウッド山のセコイアの森が付加されたものの、ミューアが強調していた二大溪谷は国立公園から除外された⁽⁸⁷⁾。

両峡谷共にダム建設が始まるまでの間は国立公園局の管理化に置かれるとされ、ダム候補地から除外された場合には公園に追加されることになっていた。しかし水利権問題が決着し、両溪谷が国立公園に付加されるまでにはさらに四半世紀を待たねばならなかった⁽⁸⁸⁾。

R・ヤードは、キングズキャニオン国立公園法成立後、公園局は同公園をダムで埋め尽くすであろうという悲観的に述べている⁽⁸⁹⁾。ここにもシエラ・クラブの国立公園化を通して圧力をかけるという見解との懸隔と、公園局に対する根強い不信が現れていた。

おわりに

最後に国立公園派の分裂をめぐる問題を総括しよう。まず、一九二〇年代にシエラ・クラブとヴァン・ネイムの間にあったのは危機認識と価値観の相違であった。それに加えて、各個人・団体とその時々における森林局や国立公園局への信頼感の有無と、政策立案過程への距離が介在していた。

この点において、国立公園局の政策展開を概観することが有益である。一九二〇年代末以降、国立公園局はG・ライトを中心に科学的な野生動物管理政策に取り組み、一九三三年と三五年には公式報告書が出版された。一九三一年にオルブライト公園局長官は新聞発表にて、ウィルダネスを重視する方針であると述べていた。またフロリダ州のエヴァーグレイズ国立公園がウィルダネス保存型国立公園として一九三四年に設立されていたが、当初、議会が予算支出をしなかったために私有地の買い取りが難航し、実際の開所は一九四七年まで待たねばならなかった⁽⁹⁰⁾。

ニューディール期に入ると公園局の生物学者は増員されたが、それ以上に文民資源保全隊(Civilian Conservation Corps)を労働力として建設作業が推進されていた⁽⁹¹⁾。即ち、公園局にはウィルダネス保存の確固たる実績がなかった。

他方で森林局は、国有林の広大さを活かした原始地域の設定を通して、国立公園派の市民団体との友好的関係を築きつつあった。それらは担保なき局内政策であったとは言え、現場を重視する観点からは、国立公園派にとっても十分に魅力的なものであった。

公園協会が反対に固執したな理由は、背後関係に不明瞭さが残っているものの、その純粹主義であったように見える。これは前述のヤードの手紙からも窺えよう。マイルズは同協会とアメリカ林業協会の接近要因を、森林レクリエーションの需要増大と国有林利用の変化に求めているが、林業協会にとって公園協会の純粹主義が林業利害と一致しやすかったことこそが要因であったように思われる。これは同時期に進められていたオリンピック山国立公園運動において、公園協会が厳選された地域だけからなる相対的に小規模な国立公園を支持したことに示唆的である^⑧。

林業利害が背後で操ってはいなかったとしても、両者が友好関係にあったことと、この時期、林業協会はイッキズの森林政策に敵対的姿勢をとっていたことは事実である。

他方、シエラ・クラブは政治的妥協の繰り返しであった。彼らの場合、国立公園システム全体というよりも、シエラ・ネヴァダ山脈を漸進的であれより良好な保護下に置こうとしていたことにその要因を求められよう。但し、この姿勢

がときに彼らを妥協的にし過ぎていた感は否めなかった。

さて、一九四〇年までにシエラ南部の過半数のセコイアの森が国立公園内に包含された。しかし、未だ多くの森が国有林内に存在し、森林局の内部政策に左右される状況下に置かれていた。これに対して、二〇世紀末の自然保護運動はセコイアのより包括的な保護を求めた。これは二〇〇〇年にクリントン政権がジャイアントセコイア国立記念物を制定したことで結実し、中心人物のカーラ・クロア女史はシエラ・クラブのジョン・ミューア賞を受賞した。しかし、同記念物は国有林内に位置しており、管理方針をめぐってクラブとブッシュ政権下の森林局は対立をしている^⑨。

古典的な、しばしばエリート主義的と称される自然保護さえも、その出発から一世紀を経てもなお終わっていないのである。

注

(1) Douglas H. Strong, "A History of Sequoia National Park", Unpublished Dissertation, Syracuse University, 1965, chaps. 5&6; Lary Disaver and William Tweed, *Challenge of the Big Trees: A Resource History of Sequoia and Kings Canyon National Parks*, Sequoia

- Natural History Association, 1990, pp.115-18, 198-214.
- (㉞) Strong, “A History”, p.194.
- (㉟) John Muir, “A Rival of the Yosemite: The Cañon of the South Fork of King’s River, California”, *Century*, V.43, No. 1 (November 1891), pp.77-97; Norman L. Wilson and Lucinda M. Woodward, “C. D. Robinson and John Muir in the Kings River Canyon”, Sally Miller (ed.), *John Muir in Historical Perspective*, Peter Lang, 1999, pp.83-95.
- (㊱) Muir, “A Rival”, pp.81, 83, 85, 89, 91-92.
- (㊲) Muir, “A Rival”, pp.79, 88, 90.
- (㊳) Douglas H. Strong, “The Sierra Forest Reserve: The Movement to Preserve the San Joaquin Valley Watershed”, *California Historical Society Quarterly*, V.46.1 (March 1967), pp.3-17.
- (㊴) Sierra Club Outing Committee, “Report on the King’s River Canon and Vicinity”, *Sierra Club Bulletin* [㉮ㄣㄣㄣ ㉮㉮㉮], V.6.2 (January 1907), pp.115-25.
- (㊵) Strong, “A History”, pp.209-10.
- (㊶) Robert W. Righter, *The Battle Over Hetch Hetchy: America’s Most Controversial Dam and the Birth of Modern Environmentalism*, Oxford Univ. Press, 2005, pp.96-133.
- (㊷) Horace Marden Albright and Marian Albright Schenck, *The Mather Mountain Party of 1915: A Full Account of the Adventures of Stephen T. Mather and His Friends in the High Sierra of California*, Sequoia Natural History Association, nd [1990?].
- (㊸) Strong, “A History”, pp.175-81.
- (㊹) Strong, “A History”, pp.213-15. and Donald Swain, “The Passage of the National Park Service Act of 1916”, *Wisconsin Magazine of History*, V.50.1 (Autumn 1966), pp.4-17. ㉮㉮㉮ pp.15-17.
- (㊺) *U.S. Statutes at Large* 39 (1916), pp.535-36. and Richard West Sellars, *Preserving Nature in the National Parks: A History*, Yale Univ. Press, 1997, pp.38-46.
- (㊻) Horace Albright, as told to Robert Cahn, *The Birth of the National Park Service: Formative Years, 1913-33*, Howe Brothers, 1985, pp.59-60.
- (㊼) United States Department of Interior National Park Service, *National Parks Portfolio*, 2d ed., pp.15S-22S; *Annual Report of the Director of the National Park Service* [㉮ㄣㄣㄣ NPS Annual Report ㉮㉮㉮], 1917 (October 13, 1917), pp.852-54.
- (㊽) Strong, “A History”, pp.219-220.
- (㊾) John C. Miles, *Guardians of the Parks: A History of the National Parks and Conservation Association*, Taylor & Francis, 1995, pp.23-29.
- (㊿) Strong, “A History”, pp.233-39.
- (㉀) Miles, *op.cit.* (note 17), pp.43-48; Letter from William Frederick Badé to Francis P. Farguhar, October 19, 1921. William Frederick Badé Papers, Box 1, Folder: Outgoing letter. University of California, Berkeley, Bancroft Library [㉮ㄣㄣㄣ UCB BL ㉮㉮㉮].

- (20) Strong, "A History", pp.241-52.
- (21) Francis P. Farquhar, "Sequoia National Park Enlargement Draft" (September 1921), 24pp. Francis P. Farquhar Papers, Ctn.6, Sequoia Park Enlargement Folder 1. UCB BL. ㏊㏊㏊㏊㏊' pp.6-7.
- (22) Strong, "A History", p.249.
- (23) Strong, "A History", pp.251-52.
- (24) Letter from Willard G. Van Name to Francis Sumner, April 5, 1922, attached to letter from F. B. Sumner to William F. Badé, April 19, 1922. William Frederick Badé Papers, Box 2, Folder:Willard Van Name. UCB BL.
- (25) Letter from Stephen T. Mather to Dr. Osborn, January 31, 1922. Copy in Sierra Club Member Papers Ctn.39, Folder 22. UCB BL.
- (26) Letter from Van Name to Sumner, April 5, 1922, pp.1-2.
- (27) Letter from Van Name to Sumner, April 5, 1922, p.4.
- (28) Willard G. Van Name, "A Grab for Half a National Park", 7pp. Reprinted from *The New Republic*, February 7, 1923. 林の園のひだりへ半額をせよと云ふ。㏊㏊㏊' pp.[3-5].
- (29) Idem, "The Barbour Roosevelt-Sequoia Park Bill", *Ecology* 4, 2 (April 1923), pp.214-17.
- (30) William Frederick Badé, "Further Comment on the Proposed Roosevelt-Sequoia National Park and the Barbour Bill", *Ibid.*, pp.217-19.

- (31) Willard G. Van Name, *The Sequoia National Park: A Bill That Should Be Amended or Defeated* (January, 1924), 2pp. ㏊㏊㏊㏊' p.[2].
- (32) Copy of Letter from W. B. G. Greeley to Stephen Mather, November 14, 1923 and Frank P. Cunningham, "Report to District Forester: Boundaries-Sequoia / Roosevelt-Sequoia" (November 1, 1923), pp.3-4, inclosed to letter from Stephen T. Mather to W. E. Colby, November 22, 1923. Sierra Club Member Papers, Ctn.39, Folder 22. UCB BL.
- (33) Letter from G.E. Reynolds to Horace M. Albright, January 3, 1924. Copy in Francis P. Farquhar Papers Ctn.6, Folder 4. UCB BL.
- (34) Letter from Robert Sterling Yard to William E. Colby, January 30, 1924. Copy in Francis P. Farquhar Papers, Ctn.6, Folder 4.
- (35) House of Representatives, Committee on the Public Lands, 69th Cong., 1st Sess., *Revision of National Park Boundaries* (April 7, 8 & 10, 1926), pp.1-7, 21-58. 国々国々図書類所蔵㏊㏊㏊㏊㏊㏊㏊㏊'.
- (36) U.S. Senate, Hearing Before the Committee on Public Lands and Surveys, 69th Cong., 1st Sess., *Revising Boundaries of Yellowstone, Grand Canyon, Mount Rainier, Rocky Mountain, and Sequoia National Parks and the Establishment of Shenandoah, Grot Smoky Mountain, and Mammoth Cave National Parks* (April 27, 29, 30, May 11 & 12, June 2, 1926), pp.147-66.

- (37) House of Representatives, Committee on the Public Lands, 68th Cong, 1st Sess., *Roosevelt-Sequoia National Park*(February 27 & 28, 1924), pp.5-18.
- (38) *Ibid.*, pp.18-21. 市田彦一, p.19, 録写, 複製。
- (39) *Ibid.*, pp.21-24.
- (40) *Ibid.*, p.25,28-29,
- (41) *Ibid.*, pp.24-27.
- (42) *Ibid.*, pp.28-30.
- (43) *Ibid.*, pp.32-39.
- (44) *Ibid.*, pp.45-47, 50. 市田彦一, pp.45, 50.
- (45) *Ibid.*, pp.48-59. 市田彦一, p.47, 48, 59, 録写, 複製。
- (46) *Ibid.*, pp.45, 57-60.
- (47) *Ibid.*, pp.69-72.
- (48) "Annual Report of the Superintendent of Yosemite National Park,1922", *NPS Director Report*, 1922(October 10, 1922), p.117.
- (49) House, Committee on the Public Lands, *Roosevelt-Sequoia National Park*, pp.73-75.
- (50) Willard G. Van Name, *The Yosemite National Park:How Its Boundaries Have Been Trimmed and Its Forests Logged Off*(January 1924), 7pp. Copy in William Frederick Badé Papers Box1, Folder:Robert U. Johnson, UCB BL. and Iden, "Yosemite National Park," *Mariposa Gazette*, February 15, 1924. カリフォルニア州立図書館所蔵「ペインクロフツ」。
- (51) Hank Johnston, *They Felled the Redwoods:A Saga of Flume and Rails in the High Sierra*, Stauffer Publishing, 1996, pp.95-135.
- (52) Andrew Cauldwell, "Report on the Big Trees of California"(September 1890), unpagd. Copy in Francis Farquhar Papers, Ctn.1, Folder:Big Trees 1. UCB BL.
- (53) Copy of Letter from W. B. G. Greeley to Stephen Mather, November 14, 1923 and Frank P. Cunningham, "Report to District Forester:Boundaries-Sequoia / Roosevelt-Sequoia" (November 1, 1923), pp.3-4.
- (54) Walter Fry and John R. White, *Big Trees*, Stanford Univ. Press, 1930, p.118; Dwight Willard, *A Guide to the Sequoia Groves of California*, Yosemite Association, 2000, pp.82-85.
- (55) H. Thomas Harvey, Howard S. Shellhammer and Ronald E. Stecker, *Giant Sequoia Ecology*, United States Department Interior National Park Service, 1980, pp.50, 66-67.
- (56) H.R.9387, 69th Cong. 1st Sess., February 16, 1926.
- (57) Letters from R.Y. Stuart to Stephen Mather, Nov.20, 1928; Arno B. Cammerer to R.Y. Stuart, Nov.28 1928; R.Y. Stuart to Stephen Mather, December 6, 1928. Copies in Francis Farquhar Papers, Ctn.6, folder 4, UCB BL. and Letter from Horace M. Albright to Duncan McDuffie, February 6, 1929. Sierra Club Member Papers, Ctn.39, Folder 25. UCB BL.
- (58) Albright, *op.cit.* (note 11), pp.236-38, 241.
- (59) Dennis M. Roth, *The Wilderness Movement and the National Forests*, 2d ed., Intaglio Press, 1995, pp.2-3.

- (26) Stephen Fox, *American Conservation Movement: John Muir and His Legacy*, pbk ed., Univ. of Wisconsin Press, 1985, pp.203-04.
- (27) Dilsvaver and Tweed, *op.cit.* (note 1), pp.202-205.
- (28) Susan Schrepfer, "Establishing Administrative 'Standing': The Sierra Club and the Forest Service, 1897-1956", *Pacific Historical Review* V.58, 1 (February 1989), pp.55-81; S. B. Show, "Primitive Areas in the National Forests in California", *SCB*, V.18, 1 (February 1933), pp.24-30.
- (29) Irving Brant, *Adventures in Conservation with Franklin D. Roosevelt*, Northland Publishing, 1988, pp.148-52.
- (30) Harold L. Ickes, *Secret Diary of Harold Ickes: First Thousand Days, 1933-36*, Da Capo Press, 1974, pp. 20-21, 175-76; Miles, *op.cit.* (note 17), p.108.
- (31) Francis P. Farquhar, "Legislative History of Sequoia and Kings Canyon National Parks", *SCB*, V.26, 1 (February 1941), pp.42-58. 附註 pp.54-55.
- (32) Department of the Interior, Memorandum for the Press: For Release in Afternoon Papers of Monday, March 25, 1935.
- (33) A Bill to establish the Kings Canyon National Park, S. 2289, 74th Congress, 1st Session. and Miles, *op.cit.* (note 17), p.116.
- (34) Resolution adopted May 4, 1935 by the Board of Directors of the Sierra Club Urging the Creation of Kings Canyon National Park, "Information Concerning the Proposed Kings Canyon National Park", p.11. Francis P. Farquhar Papers, Ctn.3, Kings Canyon National Park folder 2. UCB BL.
- (35) Robert L. Lipman, "1935 Outing", *SCB* V. 21, 1 (February 1936), pp.35-39.
- (36) E. Lowell Sumner, Jr., *Special Report on a Wildlife Study of the High Sierra in Sequoia and Yosemite National Parks and Adjacent Territory*, pp.21-22. RG79 720-04 Wildlife Sequoia National Park. National Archives, Washington, D.C.
- (37) Ansel Adams, "Highlights in National Park Legislation: Kings River Canyon Qualifies as a National Park", *American Planning and Civic Annual*, 1936, Mount Pleasant Press, 1936, pp.76-85.
- (38) Farquhar, "Legislative History", p.55; Joel H. Hildebrand, et. al., "Report of the Committee on Kings Canyon Development"; "Master Plan Kings River District Sequoia National Forest" (Abridged copy) Both in Francis Farquhar Papers, Ctn.3, Kings Canyon National Park Folder 1. UCB BL.
- (39) Joel H. Hildebrand, "Maintenance of Recreation Value in the High Sierra: A Report to the United States Forest Service", *SCB* 23, 2 (April 1938), pp.85-96.
- (40) Fox, *op.cit.* (note 60), p.215.
- (41) Frank A. Kittredge, "The Campaign for Kings Canyon National Park: Personal Recollection", *SCB*, V.45, 9 (December 1960), pp.32-46; Ickes, *op.cit.*, pp.20-21,

In Pursuit of John Muir's Vision: National Park Enlargement Movement in the Southern Sierra Nevada, California, 1891-1940

by KATO, Testuzou

From 1891 to 1940, national park enlargement had been pursued. That was realized with compromises in 1926 and 1940. In these movements schism among Pro-National park citizens occurred. There were two major reasons; one was difference in priority of preservation and another was their relationship to National Park Service and / or Forest Service.

One of the earliest and famous voices was that of John Muir in 1891. He wrote for the enlargement of Sequoia National Park to include Kings River Basin to the north and Sequoia groves to the south.

In 1920s when NPS and the Sierra Club moved to throw away southern townships of Sequoia NP where there is some sequoia groves for enlarge the park to the north Willard Van Name protested to it. The major reason was difference in priority and confidence in US Forest Service; while the former preferred great mountain scenery and canyons and confided in Forest Service, the latter thought primary value of the park was not mountain scenery but magnificent forest and disbelieve USFS. On one point Van Name was right but on the other he was not.

In 1930s when the movement to create Kings Canyon National Park began, the Sierra Club wasn't main actor and National Parks Association was against the park bill. The one reason was that relationship between both groups and USFS was good but they felt Washington office of NPS was not friendly. Another reason was to exclude two canyons in the Kings River basin for possible irrigation dam sites. The Park was created without canyons in 1940. And the irrigation dams were not constructed so that after 25 years two canyons were included in the Park.